

授業マイスター講座(中学校道徳)

授業マイスター 荒牧中学校 教諭 兼山 美由紀

担当指導主事：村上 大介

キーワード：小中連携 道徳の教科化 評価

1 実施概要

実施月日	司会・助言	場所・形態	演題(またはテーマ)
10月3日(木)	荒牧中学校 兼山 美由紀 教諭	荒牧中学校 2年4組教室 公開授業・研究協議	「生徒の変容や成長を授業中の様子等から3つの観点で見取る」

2 主な内容

(1) 公開授業での見取り

荒牧中学校2年4組 授業者 樋ノ口 陽介 教諭

「命のトランジェットビザ」(国際理解・国際貢献)

～3つの観点から生徒の成長・変容をとらえる～

A 一面的な見方から多面的、多角的な見方へと発展している点

B 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている点

C 人間としての生き方について考えを深めている点

(生徒の発言、つぶやき、班での話し合い、プリントなどをもとに)



(2) 研究協議

① 授業について

- ・授業内容がねらいにあっていただか。
- ・教師の範読は正確に。
- ・子どもが理解を深めるためにフラッシュカードに発問を書いて貼るなどした方が良かった。
- ・わかっていない生徒に机間指導で声をかけるべき。
- ・班での話し合いを深めず、それぞれの意見をボードに書いていた。
- ・最後は映像でなくても教師が話しても良かったのではないか。
- ・映像だからこそ、よく集中していた

② 個々の生徒の意見について

- ・「処分を受けるべき」という考えの生徒が目があった。
- ・「のちのちの日本のため」と書いている生徒が何人かいたが、発問で教師もそのことにふれていたため、深める材料にしてほしかった。
- ・「こんな日本になってほしい」という意見があったが、「国」という観点から考えられている。
- ・「私は」「自分がこの立場だったら」など自分自身との関わりの中で深めようとする生徒が何人かいた。
- ・「これからは」「私も」「自分の思う道を進みたい」「僕はいま他の人のために何ができるかを考えています」など生き方について考えている生徒もいた。
- ・6千人にビザを発行することで最終25万人を助けたことに気づいた生徒がいた。



・「今の自分だったら」「当時の立場だったら」と、過去と現在の時間的な視点、客観的に評価できる立場と当事者の立場など立場を動かした観点など多面的・多角的に考えられている生徒もいた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 授業において多様な考え方を交流させることができた。
- ② ホワイトボードを活用し、班で意見をまとめ、全体に提示することで、自分の考えと他の人との考えを比較できた。
- ③ 小学校教員の参加があり、すでに小学校で取り組まれている記述式評価や研修について話を聞くことができた。
- ④ 参加者が協力して記述式評価を作成し、交流することで「多面的・多角的な」生徒の見方や評価文の書き方を学ぶことができた。
- ⑤ 生徒一人ひとりの成長をとらえ、それぞれの生徒の成長にあった記述式評価をしようとする意識を持ってもらうことができた。
- ⑥ 新任教員も、他の研修で学んだこともふまえ、協力してグループで記述式評価を作成することができた。
- ⑦ 2回とも参加した教員の中に、昨年度の講座で得た問題意識を持って校内研修に取り組みられた実践があり、その成果を2回目の講座で報告してもらうことで、研修が深まった。

(2) 今後の課題

- ① 1時間の授業の中で、ねらいを明確にし、ねらいに沿って授業を行うことが大切を感じた。
- ② 個人から班活動への時間のかけ方をどのようにすればいいか今後考えていきたい。
- ③ 生徒一人ひとりに合った評価の大切さを感じてもらうことはできたが、やはり難しいことではあるので、各担任が少しでも評価しやすくなるよう、評価文例や文章表現の例を用いて研修するなど道徳担当教師の方でサポートしていく必要がある。
- ④ 学期ごとの評価か年間を通じての評価かによって評価の記述が変わってくる。年間であれば、1年を通じての総合的な評価をまず書いてから、具体例のような内容を書いた方が良いのではないか。その場合、担任は、年間を通じての評価をとらえ、表現する力をつける必要がある。
(年間を通じて評価をする場合、いきなり年度末に評価文を作成するのは大変なので、最初の年度は、学期ごとの総合的な評価を練習するなどの研修を行う)
- ⑤ 小学校ではすでに記述式評価が行われており、今年からは中学校でも記述式評価を行うので、今後は小中の評価について交流を行うこともできると考える。